

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.12.19-25 2022

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

7:1 名声は良い香油にまさり、死ぬ日は生まれる日にまさる。

7:2 祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうがよい。そこには、すべての人の終わりがあり、生きている者がそれを心に留めるようになるからだ。

7:3 悲しみは笑いにまさる。顔が曇ると心は良くなる。

7:4 知恵のある者の心は喪中の家にあり、愚かな者の心は楽しみのある家にある。

7:5 知恵のある者の叱責を聞くのは、愚かな者の歌を聞くのにまさる。

7:6 愚かな者の笑いは、鍋の下の茨がはじける音のよう。これもまた空しい。

7:7 虚げは知恵のある者を狂わせ、賄賂は心を滅ぼす。

7:8 事の終わりは、その始まりにまさり、忍耐は、うぬぼれにまさる。

7:9 軽々しく心を苛立たせてはならない。苛立ちは愚かな者の胸にとどまるから。

7:10 「どうして、昔のほうが今より良かったのか」と言ってはならない。このような問いは、知恵によるのではない。

7:11 資産を伴う知恵は良い。日を見る人に益となる。

7:12 知恵の陰にいるのは、金銭の陰にいるようだ。知識の益は、知恵がその持ち主を生かすことにある。

7:13 神のみわざに目を留めよ。神が曲げたものをだれがまっすぐにできるだろうか。

7:14 順境の日には幸いを味わい、逆境の日にはよく考えよ。これもあれも、神のなさること。後のことを人に分からせないためである。

伝道者は神の存在に心が向くように、視点を変えようとしています。「喪中の家に行くほうがよい」、「悲しみは笑いにまさる」というように、読む者の心に気付きを与えようとしています。実際に人間の感じ方には、当たり前になってしまい、そこから真実を見抜く力が失せてしまっていることがあります。心や感受性までもパターン化してしまい、その人生観から抜け出せないことが多いのです。

自分の生活パターンを見直したり、または心が無意識に求めてしまうパターンを、これでいいのかと見直す必要があります。それはすなわち、知恵ある者の叱責を聞くこと、「愚かな者の笑い」、「事の終わり」を考えること、「忍耐」を尊ぶことによってできるのです。

ここにある教えのリストをかみしめて、現実のなかに大切な価値観を、新たに発見しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



20日 火曜

伝道者の書



7:15 私はこの空しい人生において、すべてのことを見てきた。正しい人が正しいのに滅び、悪しき者が悪を行う中で長生きすることがある。

7:16 あなたは正しすぎてはならない。自分を知恵のありすぎる者としてはならない。なぜ、あなたは自分を滅ぼそうとするのか。

7:17 あなたは悪すぎではいけない。愚かであってはいけない。時が来ないのに、なぜ死のうとするのか。

7:18 一つをつかみ、もう一つを手放さないのがよい。神を恐れる者は、この両方を持って出て行く。

7:19 知恵は町の十人の権力者よりも、知恵のある者を力づける。

7:20 この地上に、正しい人は一人もない。善を行い、罪に陥ることのない人は。

7:21 また、人の語ることばをいちいち心に留めてはならない。しもべがあなたをののしるのを聞かないようにするために。

7:22 あなた自身が他人を何度ものしったことを、あなたの心は知っているのだから。

7:23 私は、これらの一切を知恵によって試みた。私は言った。「私は知恵のある者になりたい」と。しかし、それは私には遠く及ばないことだった。

7:24 今までにあったことは、遠く、とても深い。だれがそれを見極めることができるだろうか。

7:25 私は心を転じて、知恵と道理を学び、探り出し、探し求めた。愚かさの悪と、狂気の愚かさを知ろうとした。

7:26 私は、女が死よりも苦々しいことに気が

ついた。女は罫であり、その心は網、その手は、かせである。神に良しとされる者は女から逃れるが、罪に陥る者は女に捕らえられる。

7:27 伝道者は言う。見よ。私が道理を見出そうとして、一つ一つに当たり、見出したことは次のとおりである。

7:28 私のたましいは、なおも探し求めたが、見出すことはなかった。私は千人のうちに、一人の男を見出したが、そのすべてのうちに、一人の女も見出さなかった。

7:29 私が見出した次のことだけに目を留めよ。神は人を真つ直ぐな者に造られたが、人は多くの理屈を探し求めたということだ。

「正しすぎてはならない」とあるのは、正しいと自分が思い込んでいることに固執してはならないという意味です。人間の正義感は神に至ることはできず、また「自身も他人をのろったこと」があるからです。人生を深く考えると、人間の理解や判断では行き詰ってしまうことがわかります。

著者のソロモンのように全てを極めた者でも、「なおも探し求めているが、見いださない。」というのです。主の存在を、知恵という分野でも認めて、主の前に謙遜であり続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21日 水曜

伝道者の書



8:1 知恵のある者とされるにふさわしいのはだれか。物事の解釈を知っているのはだれか。人の知恵は、その人の顔を輝かせ、その顔の固さを和らげる。

8:2 私は言う。王の命令を守れ。神への誓約があるから。

8:3 王の前から慌てて出て行くな。悪事に荷担するな。王は自分の望むまゝを行うから。

8:4 王のことばには権威がある。だれが、王に「何をするのか」と言えるだろうか。

8:5 命令を守る者はわざわざ知らない。知恵ある者の心は時とさばきを知っている。

8:6 すべての営みには時とさばきがある。人に降りかかるわざわいは多い。

8:7 何が起るかを知っている者はいない。いつ起るかを、だれも告げることはいない。

8:8 風を支配し、風をとどめておくことのできる者はいない。死の日を支配することはできず、この戦いから免れる者はいない。そして、悪は悪の所有者を救い得ない。

伝道者は神はないという人に対して、この世の秩序や法則性に目を留めさせて、神の存在に気づくように導こうとします。

この世の王とは時の権力者で、良くも悪くもその社会の秩序をもたらします。ですから王の命令を守ることにはや疑われないことは、わざわざ守られることでもあります。ですからこの世はただ偶然で無意味な現象の羅列なのではなく、秩序と法則があるということです。

またこれは永遠の王であられる神の存在を類推する手がかりともなります。未信者であっても王や父親など神から権威を授かった者の存在を通して、神へのイメージができるのです。または悪しき支配者

がいることによって、正しい永遠の支配者を求めることができるようになるのです。

私たちは社会の秩序を尊重しつつ、その秩序をもたらしておられる神様のみこころを行いましょ。善き市民、善き国民、善き人間であることを通して、神様を証しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



22日 木曜

伝道者の書



8:9 私はこのすべてを見て、私の心を注いだ。日の下で行われる一切のわざについて、人が人を支配して、わざわざをもたらす時について。

8:10 すると私は、悪しき者たちが葬られて去って行くのを見た。彼らは、聖なる方のところから離れ去り、わざを行ったその町で忘れられる。これもまた空しい。

8:11 悪い行いに対する宣告がすぐ下されないので、人の子らの心は、悪を行う思いで満ちている。

8:12 悪を百回行って、罪人は長生きしている。しかし私は、神を恐れる者が神の御前で恐れ、幸せであることを知っている。

8:13 悪しき者には幸せがない。その生涯を影のように長くすることはできない。彼らが神の御前で恐れないからだ。

8:14 空しいことが地上で行われている。悪しき者の行いに対する報いを受ける正しい人もいれば、正しい人の行いに対する報いを受ける悪しき者もいる。私は言う。「これもまた空しい」と。

8:15 だから私は快楽を賛美する。日の下では、食べて飲んで楽しむよりほかに、人にとっての幸いはない。これは、神が日の下で人に与える一生の間に、その労苦に添えてくださるものだ。

8:16 私が昼も夜も眠らずに知恵を知り、地上で行われる人の営みを見ようと心に決めたととき、

8:17 すべては神のみわざであることが分かった。人は日の下で行われるみわざを見極めることはできない。人は労苦して探し求めても、

見出すことはない。知恵のある者が知っていると思っても、見極めることはできない。

神はない、この世はむなしいう…という人の一つの根拠は、悪者がそのままにされているではないかということです。神がいるなら正義のさばきがあるはずだということです。それに対して伝道者は確かにそのままでは「むなし」、神がないなら「食べて、飲んで、楽しむよりほかに、人にとって良いことはない。」と認めます。

しかしこれは神がないならという前提に立てばという話です。「すべては神のみわざ」であって、「人は日の下で行われるみわざを見きわめることはできない」のです。ですから、「悪い行いに対する宣告がすぐ下されない」からといって、神はないということにはないのです。

むしろ「悪い行い」へのさばきが下されるなら、誰もが滅びを宣告されるわけで、忍耐を持って待っていてくださるのが神です。私たちはその救いを伝える伝道者です。

むなしさから解放された私たちは、それにふさわしい意義ある生き方によって世の光となって、この書の伝道者のように、救いを伝えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



23日 金曜

1ヨハネ

3:1 私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。事実、私たちは神の子どもです。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。

3:2 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。

3:3 キリストにこの望みを置いている者はみな、キリストが清い方であるように、自分を清くします。

3:4 罪を犯している者はみな、律法に違反しています。罪とは律法に違反することです。

3:5 あなたがたが知っているとおり、キリストは罪を取り除くために現れたのであり、この方のうちに罪はありません。

3:6 キリストにとどまる者はだれも、罪を犯しません。罪を犯す者はだれも、キリストを見たこともなく、知ってもいません。

3:7 幼子たち、だれにも惑わされてはいけません。義を行う者は、キリストが正しい方であるように、正しい人です。

3:8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。

3:9 神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。



3:10 このことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行わない者はだれであれ、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。

救われた者は、神によって生まれたのであって神の子どもです。救われる前と全く別の存在になったのです。また神の子どもというのですから、その莫大な資産を受け継ぐことができます。何よりも親である神に似てゆくものでもあります。

ですから神様のお心にかなう生き方をすることが、喜びであり、自己矛盾がないのです。悪魔に「惑わされ」ることなく、神の子としての生き方を選び取りましょう。それこそが喜びの道でありますから、その経験を重ねてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。

1:19 夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。

1:20 彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。」

1:21 マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。

1:23 「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

1:24 ヨセフは眠りから覚めると主の使いが命じたとおりにし、自分の妻を迎え入れたが、

1:25 子を産むまでは彼女を知ることはなかった。そして、その子の名をイエスとつけた。

イエス様の誕生は、全能の神様が人類の救いのために計画なさった、すばらしくも不思議なみわざです。それは世の基が定まる前からのご計画であり、また旧約聖書に明記されていたものです。

またイエス様の誕生は、無限永遠絶対の神様が人となって、有限の世界に生まれ、人として弱者となられたという、驚くべき出来事です。そして何より、人として全人類の罪を背負って刑罰を受けてくださったという、感謝に耐えない驚くべき恵の始まりでもあります。

りでもあります。

そのような救い主の誕生が、極めて少数の人々の信仰によっているということは、考えると不思議であり、また非情に不確実な感じもします。神様はご自分の御心になされた人を知っていて、そのような人に大切な働きを託されるのです。

神様が人となってお生まれになる…。その出産をするのは、当然人間しかあり得ません。マリアはその大切な役目を全うしたのであり、ヨセフはその夫という役目を全うしました。同じように私たちもまた、神様が人の世界にみわざを行うという役目を担っています。伝道にしる愛の行いにしる、神様の使命を行うのは天使ではなく人間にしかできないことなのです。

マリアは命をかけて、使命を果たす決心をしました。またヨセフも人生をかけて、また名誉を捨ててその決断をしました。彼らに倣って、私たちも主の御心を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:1 イエスがヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東の方から博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。

2:2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私たちはその方の星が昇るのを見たので、礼拝するために来ました。」

2:3 これを聞いてヘロデ王は動揺した。エルサレム中の人々も王と同じであった。

2:4 王は民の祭司長たち、律法学者たちをみな集め、キリストはどこで生まれるのかと聞いたのだ。

2:5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれています。

2:6 『ユダの地、ベツレヘムよ、あなたはユダを治める者たちの中で決して一番小さくはない。あなたから治める者が出て、わたしの民イスラエルを牧するからである。』」

2:7 そこでヘロデは博士たちをひそかに呼んで、彼らから、星が現れた時期について詳しく聞いた。

2:8 そして、「行って幼子について詳しく調べ、見つけたら知らせてもらいたい。私も行って拜むから」と言って、彼らをベツレヘムに送り出した。

2:9 博士たちは、王の言ったことを聞いて出て行った。すると見よ、かつて昇るのを見たあの星が、彼らの先に立って進み、ついに幼子のいるところまで来て、その上にとどまった。

2:10 その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。

2:11 それから家に入り、母マリアとともにいる幼子を見、ひれ伏して礼拝した。そして宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

2:12 彼らは夢で、ヘロデのところへ戻らないようにと警告されたので、別の道から自分の国に帰って行った。

イエス様の誕生は、全能の神様が人類の救いのために計画なさった、すばらしくも不思議なみわざです。それは世の基が定まる前からのご計画であり、また旧約聖書に明記されていたものです。

またイエス様の誕生は、無限永遠絶対の神様が人となって、有限の世界に生まれ、人として弱い者となられたという、驚くべき出来事です。そして何より、人として全人類の罪を背負って刑罰を受けてくださったという、感謝に耐えない驚くべき恵の始まりでもあります。

そのような救い主の誕生が、極めて少数の人々の信仰によっているということは、考えると不思議であり、また非情に不確定な感じもします。神様はご自分の御心になされた人を知っていて、そのような人に大切な働きを託されるのです。

神様が人としてお生まれになる…。その出産をするのは、当然人間しかあり得ません。マリアはその大切な役目を全うしたのであり、ヨセフはその夫という役目を全うしました。同じように私たちもまた、神様が人の世界にみわざを行うという役目を担っています。伝道にしろ愛の行いにしろ、神様の使命を行うのは天使ではなく人間にしかできないことなのです。

マリアは命をかけて、使命を果たす決心をしました。またヨセフも人生をかけて、また名誉を捨ててその決断をしました。彼らに倣って、私たちも主の御心を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

